

概況説明

エネルギーと環境は相対する部分もあり、大人というより人類として明確な答えを出せない問題である。それは東日本大震災に伴う福島第一原子力発電所の事故を受けてさらに混迷の程度を増している。人口が増え、かつ便利な社会を維持するために一人当たりのエネルギー消費量も増やしたい一方で、環境も守っていかないといけない、一次エネルギーはそれぞれ利点と欠点があり、多面的に見ないと全体を見誤ってしまう…、こうした複雑な問題の答えを指し示すことは無理としても、その見方、考え方を次代を担う子どもたちにも段階的に伝えていく必要がある。

このような思いを胸にエネルギー・環境教育の実践的な研究を進めてきている。そうしたところに中部電力株式会社より、義務教育段階でエネルギー・環境問題について理解を深めてもらうような取り組みができないかと相談を受け、支援を受けて始めたのが平成 19 年度である。「エネルギー・環境問題に、より関心を持ち、理解を深めていただきたいのが主旨である。エネルギー・環境問題に関する取り組みであれば良く、内容は自由である。必要な支援をする。」とのことで、これを条件に引き受け、企業の意向を気にすることなく自由な発想で、授業実践を行っていただける小中学校の先生方に協力を求めることとした。

初年度の平成 19 年度は、公募の範囲を三重大学教育学部附属小中学校に限定した。その後対象を拡げて実施してきており、これまでの実践件数は以下のとおりである。

	附属小学校	附属中学校	公立小学校	公立中学校
平成 19 年度	6 件	2 件	0 件	0 件
平成 20 年度	3 件	1 件	0 件	2 件
平成 21 年度	4 件	0 件	0 件	2 件
平成 22 年度	4 件	0 件	0 件	2 件
平成 24 年度	0 件	0 件	2 件	3 件

なお平成 23 年度は東日本大震災の影響を受け、実施しなかった。各実践の詳細は年度ごとの成果報告書にまとめられている。また平成 24 年度実践分からウェブでも公開し、広く参考にさせていただくこととした (<http://www.cc.mie-u.ac.jp/~eduelec/eee/index.htm>)。上記一覧を見て明らかのように、授業実践を協力いただいた学校は徐々に附属小中学校から公立小中学校へとシフトしている。一般公立小中学校に拡がっていくことは良いことではあるが、一方で附属小中学校での実践が平成 24 年度にはなくなってしまう。そこで平成 25 年度はあらためて附属小中学校の先生方に声をかけさせていただき、実施した。結果として附属小中学校、公立小中学校、そしてアブダビ日本人学校と、多様な学校を舞台に様々な実践が実施された。本報告書は現時点(平成26年3月初旬)で集約できた実践報告を取りまとめたものである。エネルギー・環境の関する授業実践の参考になれば幸いである。

末筆ながら、本取り組みを提案、支援いただいた中部電力株式会社の関係の皆様にご感謝する次第である。

三重大学教育学部
松岡 守